

受講番号 18015 学校名 高知南高等学校 氏名 津野 早秀

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 2年生 生徒数 25 名
科目名 英語 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 Powwowll

クラスの様子・特徴

対象クラスは2クラスを3講座(α:1講座・β:2講座)に分けた中のβ講座(男子15名、女子10名)である。意欲的に英語を理解しようとする生徒もいれば、ほとんど英語に興味を示さない生徒もいる。勉強しないまま試験を受けるものが数名いる。

問題の確定

すべてにおいて受動的で、自発的な学習態度が見受けられない。自学自習する能力を育て、家庭学習の習慣を確立させたい。

予備調査

A 授業の観察

4月当初はほとんどの者が辞書を持ってくるが、辞書を持ってくるものが増え、授業中もよく活用している。小テストでは勉強した者と、しない者との差がはっきりしている。地道に覚える訓練ができていない。

B 生徒による授業評価

授業内容については肯定的な意見が多数だった。音読練習は十分な時間が取れていないにもかかわらず、つまらないとか多いという意見が多かった。

C 学力データ

4月に中学校で学んだ文法事項のテストを実施した。平均点60点。最高点90点、最低点34点で、大きな差異が見られた。

リサーチ・クエスチョン

家庭学習を定着させ、自学自習の習慣をつけるにはどう指導すればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

宿題プリントの提出を義務付け、ある程度できていた者に点数を与える。ほとんどの生徒は評定を気にしているので、家庭でやってくるようになるだろう。

実践1

授業内容の復習プリントを宿題として与える。家庭で取り組み、次の時間に提出をするよう指示する。

検証1

期限内に提出する者は決まった少数の者であった。全員の提出が完了するのにかなりの期間がかかり、途中から配るだけとなってしまった。添削して返すという作業も煩雑になりがちで、全員に浸透させる手立てはないものかと思案しているうちに12月になってしまった。教師として最後まで粘り強くという気持ちを持てなかった自分が残念である。

仮説2

できるだけ頻繁に復習のための小テストを行う。内容は前時の復習問題なので、家庭で授業内容の復習をするようになるだろう。

実践2

英語を覚えるための第一ステップとして声を出して読むことに重点を置いたうえで、単語や語句テストを行った。英単語の意味を問う問題に絞ったのでそれ程負担ではないようだった。またディクテーションなどを取り入れ、自分で読んで覚えることになれるようにした。

検証2

聞くということは中学時代から慣れているようなので、ほとんどの者が熱心に取り組むことができた。しかし少数の者が頻繁なテストに辟易してしまい、ついて来れなかった。授業内でのより一層の定着を図るための工夫が必要であったように思う。

仮説3

添削プリントの提出を呼びかける。辞書を調べてプリントに取り組み、自学自習することで、達成感を味わうことができるようになるだろう。

実践3

はじめの1枚目はホームで全員にプリントを配る。添削という言葉もわからない者がほとんどなので、その趣旨を説明する。プリントは主に文法、構文についてのプリントを用意し、提出した者から順次進めていく。

検証3

1枚目は10人くらいが提出した。何度も全員に呼びかけたが次第に数が少なくなり、現在まで続いているのは2名である。必要最低限のことしかししない生徒に授業と全然関係のないプリントをさせるためできるだけ教科書の内容に沿ったプリントなどを選ぶ必要があったように感じる。

研究の成果

最近の授業評価アンケートから、音読練習が楽しいという回答が4月当初よりも多くなった。英語はどうやって勉強したらよいのかと、よく生徒に聞かれることがあったが、覚えることが第一だと思うので、音読は最も適した作業だと思う。英語の勉強の仕方がわかった、などの意見も多かった。しかし添削プリントは現在まで続いているのは2名である。続けた生徒たちは年間を通して落ち着いて取り組み、コツコツと努力することができた。1人の生徒は実力テストの結果からも学力が伸びていることが感じられる。授業中、辞書を調べる生徒が増え、家庭学習についても、予習や復習をしている生徒が増えたことは、大きな成果だと思う。

今後の授業改善の課題

単語を読むことが、覚えることにつながり、家庭学習につながるだろうと考え、音読練習に重点を置いた授業をしてきた。小テストなどが頻繁に実施され、負担になった生徒がいたようである。しかし、負担ではあってもさらに嫌いになった様でもなかった。生徒に負担を感じさせないため、テストだけに頼らず、授業に参加して身につけていくような活動を取り入れることが必要だったように思う。